

稲作情報 第5号

黒 部 市
黒 部 市 農 業 技 術 会 議

水稻の生育は、概ね順調に茎数が確保されています。
今後は『根づくり』に向け、「溝掘り・中干し」を実施しましょう。

1 中干しの前に、確実に“入水・排水するための溝”を作る

【目的】中干し（排水）やその後の間断かん水（入水）を効率的に行う

【ポイント】…詳細は、前回号を参照

- ①土が軟らかいと掘りにくいため、事前に軽く田干しを行い、土壌をやや絞める。
- ②溝は水がたまっているところを重点に、5mに1本を目安。
- ③枕地側も掘り、長辺に掘った溝と連結する。
- ④溝は排水樹に確実に連結する。



溝がしっかり残っている。



土が軟らか過ぎ、形が崩れている。

2 中干しは、田植後4週間まで（茎数 15 本/株程度を目途）に開始する

【中干しの効果】

- ①土壌中の有害ガスの除去と酸素供給により、根の伸長を促進する。
- ②過剰な分けつの発生を抑える。
- ③葉が立ち、稲の受光姿勢が良くなる。
- ④田面が硬くなり、コンバイン作業に備えることができる。

【中干しの程度】

中干しは5～7日間程度行い、田面に小さな亀裂が入り、“足跡が残る程度”まで干しましょう（一度に干せなかった場合は、数回繰り返す）。

過繁茂になりやすい水田
乾きにくい湿田

田面に大きな亀裂が入るまで強く干す

乾きやすい砂地の水田

一度に強く干さず、田面に小さな亀裂が入る程度まで干す



農業用水路の水量が多くなる時期です。転落事故には気をつけましょう！！

3 中干し後は「間断かん水」の実施

しっかり田んぼが干せた後は、幼穂形成期頃(7月上旬頃)まで「間断かん水」を行いましょう。

※高温時は、定期的に入水する等、乾き過ぎに注意(地温を下げる)

4 エスアイ加里特号の施用

ケイ酸やカリには稲体や根の活力を高め、稲の受光体勢を改善し、下葉の枯上りを軽減する効果があります。作付前に土壌改良資材を施用していない場合や基肥一発肥料を使用している場合は、追肥で補いましょう。

肥料名	施用時期	施用量
エスアイ加里特号	6月20日頃～	15kg/10a

5 後期除草剤の散布

初中期一発剤や中期剤の散布後も雑草が残った場合は、雑草の種類に応じた後期剤を散布しましょう。

【雑草が残った場合】

適用雑草	除草剤名	散布量	散布時期	注意事項
ノビエ	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5kg /10a	田植後 25 日～ ノビエ5葉期まで (収穫 30 日前まで)	5cm程度の深水にして散布し、その後7日間は止水管理とし、落水やかけ流しをしない。
	トドメ MF 乳剤	200 ml /10a (希釈水量 25～100ℓ)	田植後 14 日～ ノビエ7葉期まで (収穫 50 日前まで)	落水散布を基本とするが、湛水散布も可能。散布後2週間程度の残効が期待できる。
広葉雑草	バサグラン粒剤	3～4kg /10a	田植後 15～55 日 ※クログワイは田植後 15～35日(草丈15cm以下)まで (収穫 60 日前まで)	落水し、田面が湿った状態で晴天日を選んで散布する。散布後3～4日間は入水・落水しない。イネ科雑草には効果が無い。
ノビエや 広葉雑草	ロイヤント乳剤	200 ml /10a (希釈水量 25～100ℓ)	田植後 20 日～ ノビエ5葉期まで (収穫 45 日前まで)	落水散布またはごく浅水で散布または湛水散布。 <u>直播水稻にも使えます。</u>
	アレイルSC	500 ml /10a (希釈水量 25～100ℓ)	田植後 20 日～ ノビエ5葉期まで (収穫 45 日前まで) <u>出穂始期 15 日前まで</u>	湛水散布または落水散布。

※この他の除草剤や初めて使用する除草剤については指導員等にご相談ください。